石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第491号　令和6年9月1日発行

生誕130年 武井武雄展
～幻想の世界へようこそ～

《おやゆびひめ（キンダーブック）》 イルフ童画館蔵 ©岡谷市・イルフ童画館
－「生誕130年 武井武雄展 ～幻想の世界へようこそ～」より－

茶道具と名物裂【前田育徳会尊經閣文庫分館】

茶道美術名品展【古美術】

いきもの発見！【近現代工芸】

金沢美大草創の三羽烏
一鴨居玲と円地信二・村田省蔵一【近現代絵画】

優品選【近現代絵画・彫刻】

- 企画展Topics　食を彩る工芸
- 9月の行事予定
- 友の会ツアー参加者募集

企画展（第7･8･9展示室）

生誕130年 武井武雄展 ～幻想の世界へようこそ～

主催／北陸中日新聞、石川テレビ放送、石川県立美術館、岡谷市
後援／石川県、金沢市、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局、エフエム石川、HAB北陸朝日放送　特別協賛／東海東京証券　企画協力／イルフ童画館

9月7日（土）～10月6日（日）　会期中無休

「童画（どうが）」という言葉を生み出し、今に続く児童文化の礎を築いた芸術家・武井武雄（1894～1983）。

大正から昭和にかけて絵画や版画、イラスト、デザイン、造本、創作玩具の領域で活躍しました。東京美術学校（現・東京藝術大学）で黒田清輝、藤島武二等に学んだ後、絵本雑誌『コドモノクニ』の制作に企画段階から加わります。創刊号の表紙絵と題字デザインを手がけ、斬新さと芸術性に富んだデザインセンスで多くの人を驚かせました。

当時のこども向け雑誌に掲載される絵が附属物として片手間に描かれていると感じた武井は、「こどもには本物の芸術を与えなければならない」という主張のもと、童画家として歩むことを決意します。こどもの心に触れる絵の創造を目指し、表現の可能性を探求し続けて独自の創作世界を開拓していきました。

生誕130年を記念して開催する本展では、武井の故郷・長野県岡谷市のイルフ童画館の協力のもと、約300点の作品を紹介します。探求心と創造力によって、時にはユーモアを交えながら、こどもたちに夢や喜びを与え、大人をも魅了する武井武雄の創作世界の全貌をお楽しみください。

観覧料

一般：1,200（1,000）円
高校・大学生：900（700）円
小中学生：600（400）円
※（　）内は前売り・20名以上の団体料金
※未就学児無料
※石川県立美術館友の会会員は会員証の提示で本人のみ団体料金で入場可、石川県立美術館優待券をお持ちの方は優待券の提示で本人のみ無料で入場可。
※身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療育手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方は、本人は団体料金で入場可、付き添いの方1名は観覧無料
※本展は、石川県立美術館の単独主催ではないため、右記以外の通常、美術館で適用されている各種割引／優待は対象外です。

お問い合わせ

北陸中日新聞事業部
電話　076-233-4642（平日10時～17時）

《星曜日》

《イソップモノガタリ 表紙》

《ことりのくに》

※いずれもイルフ童画館蔵 ©岡谷市・イルフ童画館

前田育徳会尊経閣文庫分館

茶道具と名物裂

8月31日(土)～9月29日(日)　会期中無休

前田育徳会が所蔵する「茶道具と名物裂」を紹介する特集展示です。展示予定の作品から、代表的な茶道具を4点紹介します。

◇玳皮盞(たいひさん)天目茶碗(梅花天目)

天目茶碗の中でも、黒釉と灰釉の二種掛によって、独特のまだら模様が現れた茶碗を、玳皮盞天目と呼びます。玳皮盞とは、ウミガメの鼈甲の和名で、まるで鼈甲のように見えることから、この名がつきました。できた模様が「梅花」、つまり加賀藩前田家の家紋である梅模様であることから、前田家にて珍重されました。

◇名物　尼崎台

摂津国の尼崎に漂着した唐船から手に入れたと伝えられることから、「尼ケ崎台」と呼ばれた天目台です。全体に黒漆が塗られ、台の内側にムカデのような印があることが特徴です。由緒ある茶道具は「名物」と呼ばれましたが、この天目台もそのひとつです。

◇古瀬戸茶入　銘 孫六

茶入を納める挽家に、小堀遠州によって「孫六」と記されています。茶入の上部にたっぷりと瀬戸釉がかけられていることが特徴で、その薬溜りが孫六の剣の焼刃のように見えることから、この名がついたとされています。

◇茶壺　銘 春の日

やわらかい釉の調子から「春の日」と銘がついています。茶壺は「葉茶壺」とも称されるように、抹茶をつくるために挽く前の葉茶をたくわえるのに用いられました。16世紀末期に茶壺の鑑賞が流行し、ルソン島から大量の壺が輸入され、以来輸入茶壺は「呂宋茶壺」と総称されました。

《玳皮盞天目茶碗(梅花天目)》

古美術(第2展示室)

茶道美術名品展

8月31日(土)～9月29日(日)　会期中無休

石川県は、藩政期から茶の湯文化の重要な拠点でした。加賀藩は、藩祖・前田利家、2代藩主・利長が千利休から茶の湯の指導を受け、さらに豊臣秀吉からのキリスト教棄教勧告を拒否して追放との身となった利休の高弟である高山右近も、利休の尽力により客将として迎えています。3代藩主・利常は、利休から古田織部の流れをくむ小堀遠州に助言を求めるとともに、京都で独自の茶風を築いた金森宗和や、利休の侘茶への回帰を強く打ち出した利休の孫・宗旦とも親交を持ちました。そして宗旦の四男・仙叟宗室は、晩年の利常に仕えています。利常が1658年に没した後も仙叟宗室と加賀藩の関係は続き、5代藩主・綱紀には1661年に初御見得して以後、30年以上にわたって仕えました。

加賀の茶の湯文化は、明治維新後、行政や実業家が新たな担い手となって興隆しました。「近代数寄者」と呼ばれた実業家によって、数多くの茶道美術の名品が石川県に集積し、野々村仁清の国宝《色絵雉香炉》をはじめ、その一部が当館に寄贈され、重要なコレクションとなっています。そして特筆されるのは、その寄贈が昭和、平成そして令和にいたるまで連綿と継続していることです。

今回は、歴史的な美意識の変遷に着目しながら作品を取り合わせてみました。茶道美術の概念も拡大し、たとえば利休を敬慕した俵屋宗達の県文《槇檜図》を、「きれいさび」の展開に位置付ける一方で、久隅守景の《笹に兎図》や松尾芭蕉の県文《温泉頌山中の句》は、利休回帰の流れで展示します。

重要文化財《染付竜文花生　銘 白衣》安南

近現代絵画（第3展示室）

金沢美大草創の三羽烏

－鴨居玲と円地信二・村田省蔵－

8月31日（土）～9月29日（日）　会期中無休

現在の金沢美術工芸大学の前身にあたる金沢美術工芸専門学校（以下、美専）は、戦後間もない昭和21年に開校し、25年短期大学、30年大学と変遷し、わが国の美術工芸に係る高等教育機関の一翼を担ってきました。本特集展示では、美専に学んだ第一期生の鴨居玲の作品を中心に、鴨居とともに三羽烏とうたわれた円地信二、村田省蔵の作品を交え、それぞれの個性の輝きをご覧いただきます。

3人の作家の画業をたどると、その道は決して平坦なものではなく、厳しい研鑽、葛藤を経てそれぞれの作風を確立していったことがわかります。本展では、3人がそれぞれ自己の表現の方向性を見出すターニングポイントとなった時期の作品を起点とし、その後各自のスタイルを確立していく状況を、館蔵品を中心にたどります。

鴨居玲《静止した刻》

円地信二《ロッジの散歩》

村田省蔵《午後の町》

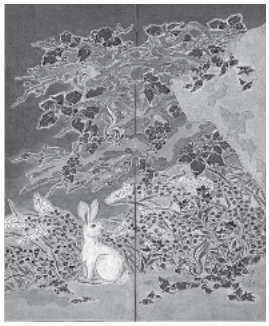
近現代工芸（第5展示室）

いきもの発見！

8月31日（土）～9月29日（日）　会期中無休

第5展示室では、いきもの発見！をテーマに、魚、虫、鳥、動物などをモティーフとして使用している作品を特集し紹介します。

入ってすぐの壁面ケースには、遊泳する魚の群れと、水の流れにゆらぐ海藻が画面全体に表現されている木村雨山《友禅訪問着「魚のむれ」》。鮮やかに染め上げられた青色が、魚の動きと水の透明感を印象づけます。また、木村雨山《春秋の譜》は一双の屏風で、左隻には梅や椿やアヤメなどの草木花が咲き乱れ、雉をはじめ鳥が遊ぶ春の景色を、右隻には萩、桔梗など秋草と紅葉した木、そして落葉の舞う中に兎や栗鼠（りす）が戯れ、小鳥が飛ぶ秋の景色が描かれています。このほか、南部勝之進《青銅露草文水盤》は高台の唐草風の露草のなかに、カマキリやバッタがあしらわれています。水盤としての用途を考え、水が入る部分には模様がなく、全体として控えめな装飾となっているので、隠れている虫たちの居所を探すのも楽しい作品です。藤井観文《片切沈金彫栗鼠文小箪笥》は5段の引き出しを備えた小箪笥で、扉と側面に戯れる栗鼠が沈金片切彫りによる単純化した輪郭線で表現されています。シャープな線描の栗鼠は可愛い小動物との印象が少し違って感じられるかもしれません。今回もワークシートを準備してありますので、鑑賞の一助に手に取っていただければと思います。



木村雨山《春秋の譜》（右隻）

9月の企画展示室

近現代絵画・彫刻（第4・6展示室）

優品選

8月31日（土）～9月29日（日）　会期中無休

第4・6展示室では、第3展示室で開催の特集「金沢美大草創の三羽烏」にちなんだ作品を展示します。

第4展示室では、金沢美術工芸大学において30年以上指導を続けた元学長・故大沢衛氏の肖像画のほか、北陸の洋画壇で活躍し続けた同学ゆかりの画家の油彩画を展示します。この肖像画は同学教員・竹沢基が制作し、的確な筆さばきと色彩で、高名な英文学研究者であった大沢氏の風貌とアカデミックな雰囲気を確かに捉えています。

彫刻分野の関連作品である雨宮敬子《鴨居玲像》は開襟シャツ姿の鴨居の胸像で、往年のラフな風貌を表現しています。温和な面持ちは、鴨居玲の自画像とは異なる雰囲気を纏っています。作家の眼を通して表現された姿を鴨居作品と合わせてお楽しみください。

また鴨居玲の素描作品から、構図を変えて描いた2点の《裸婦》を紹介します。茶色の紙に赤いパステルで描き、軽く描いた部分には下地の色の効果も感じさせます。「天賦の素描家」といわれる宮本三郎を師とし、鴨居もまた日々のデッサンを怠りませんでした。デッサンへの探求心がうかがえる作品です。

第6展示室の日本画部門では、「三羽烏」と同時期に金沢美術工芸専門学校で学び、教えた日本画家を中心に紹介します。開校直後より長年にわたり教鞭をとった原田太乙は、自然の描写に秀でた日本画家です。昭和26年制作の《寂寞（しじま）》は画題の示す通り、ものしずかで寂しげな自然の瞬間を表した優品です。

雨宮敬子《鴨居玲像》

第7・8・9展示室

第34回

石川県水墨画協会公募展

8月30日（金）～9月2日（月）　会期中無休

石川県水墨画協会公募展も今年度で34回目を迎えることとなりました。公募展は会員の研鑽成果発表の場であると同時に、広く県内の水墨画愛好者からも作品を募り、厳正な審査で選ばれた入選作を展示しております。

今は個人でもデジタルでお絵描きする時代です。人工的な色が氾濫する中で、水墨画は基本的に墨と水だけを使って白い紙の上に筆を使って描かれます。その制限のなかで墨の濃淡やにじみ、かすれで奥行きや色彩などを感じさせる様々な作品をぜひご鑑賞いただき、墨と水の調和をお楽しみください。

皆様のご来場をお待ちしております。

◇入場無料

◇連絡先／石川県水墨画協会事務局長　横浜紀子

電話：0767-26-1456

企画展Topic

食を彩る工芸

11月9日(土)～12月8日(日)　会期中無休

日本には四季があり、その移ろいとともに古来より、衣・食・住のあらゆる場面で、季節に合わせた暮らし方を楽しんできました。食と工芸は、歴史的にも文化的にも深く結びついており、旬の食材を目でも味わうための器が作られ、場面に応じて使い分けられています。

石川県はその豊かな自然から、様々な山海の幸がもたらされ、豊かな食文化を発展させてきました。いわゆる加賀料理とは、京料理の伝統を受け継ぎながら、地域色豊かな食材を用いたものです。多くの職人たちが、工夫を凝らした料理に見合う器を作り、今も大切に使われています。本県で現在に至るまで工芸が盛んであるのは、この歴史的、文化的背景に負うところが大きいでしょう。

本展は2部構成です。第1部は「石川の食と工芸」をテーマに、石川県の特徴的な食にまつわる行事を、そのために作られた器で紹介します。本県ゆかりの作家の作品、四季折々の意匠が施された器を、時には屏風などの絵画作品とともにご覧いただきます。さらに、美術館や博物館のみならず、一般の料亭などが所蔵する器を併せて展示します。

第2部の「現代の食と工芸」では、現在県内で活躍している気鋭の工芸作家の新作を展示します。第1部を受けて、これからの石川における新しい「食を彩る工芸」を提案するものです。8人の作家たちが制作した作品を、3つのシチュエーションを想定して展示するという、当館において初めての試みとなります。

《合鹿椀》能登町蔵（撮影：濱崎敏彦）

9月の行事予定

■0才からのファミリー鑑賞会

日時　9月1日(日)　①10：00～11：00
　　②13：30～14：30
会場　石川県立美術館コレクション展示室
定員　各回5組20名程度　先着順
対象　0才～小学生までのお子さんとその家族
参加費　高校生以下無料　ご家族内大人2人まで無料
※申込受付は終了いたしました。

■土曜講座「「いきもの発見！」スライドトーク こどもの目線のお話も交えながら」

日時　9月21日(土)　13：30～15：00
講師　西　ゆう子　普及課担当課長
会場　石川県立美術館講義室
聴講無料、申込不要

■記念講演会「武井武雄の人生と作品について」

日時　9月7日(土)　13：30～(開場13：00～)
講師　山岸吉郎氏(イルフ童画館館長)
会場　石川県立美術館ホール
定員　約200名
聴講無料、申込不要(先着順)
※聴講には「生誕130年　武井武雄展～幻想の世界へようこそ～」の観覧券(観覧済み半券可)が必要です。

■土曜講座「龍の文様と工芸」

日時　9月28日(土)　13：30～15：00
講師　奈良　竜一　学芸主任
会場　石川県立美術館講義室
聴講無料、申込不要

〔参加者募集！〕
令和6年度　友の会ツアー

信濃の美術館をめぐる

**北陸新幹線を利用することで、より遠方の地域へのツアーが実現しました。
今回は、当館とも関わりが深く、かねてより友の会ツアーでの訪問を希望していた
脇田美術館を軸に、軽井沢・上田の美術館や寺院をめぐります。**

開 催 日：令和6年10月19日（土）、20日（日）
集合時間：午前8時
発　　着：金沢駅
参加代金：友の会会員　53,000円
　　会員以外　　58,000円
募集定員：20名　※応募者多数の場合は抽選になります。

◆見学地

【脇田美術館】
当館所蔵作家である脇田和の専門美術館です。企画展「鳥の詩が聴こえる－脇田和の世界－」を鑑賞し、当館友の会のためだけに脇田和のアトリエを特別公開していただきます。

【軽井沢千住博美術館】
日本画家・千住博の作品を展示する美術館。金沢21世紀美術館の設計にも携わった西沢立衛の建築も見どころです。自然の中にいるような空間で鑑賞体験を楽しみましょう。

【軽井沢安東美術館】
日本のみならずパリでも活躍した油彩画家・藤田嗣治の作品だけを常設展示する美術館。初期から晩年までの作品を解説ののち鑑賞します。

【戦没画学生慰霊美術館 無言館】
第二次世界大戦中に戦死した画学生が描いた作品を扱った美術館です。ひたむきな彼らの作品を鑑賞した後、特別に窪島館長のお話しを伺います。

【上田城跡・上田市立博物館】
戦国武将・真田幸村の父、真田昌幸によって築城されました。ボランティアの解説とともに上田城跡と上田市立博物館を見学します。

【安楽寺】
曹洞宗の古刹。国宝の八角三重塔は日本最古の禅宗様建築であり、現存唯一の八角塔としても知られています。所蔵する文化財の解説を聞きながら見学します。

◆申込方法
以下の内容を記載の上、往復はがきもしくはメールにてご応募ください。
※1通のはがき・メールで2名以上の申込をされる場合は、下記内容を人数分ご記載ください。

①往復はがきの場合
往信はがき裏面…「令和6年度友の会ツアー希望」と明記の上、氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号（ある方のみ）をご記入ください。
返信はがき表面…返信先（ご自身の住所）をご記入ください。
※消えるボールペンは使用しないでください。返信はがきの裏面には何も記入しないでください。

②メールの場合
件名…令和6年度友の会ツアー希望
本文…氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号（ある方のみ）

◆申込先
〒920-0963　金沢市出羽町2－1
石川県立美術館バスツアー係
ishibi@pref.ishikawa.lg.jp
※メール送信後、1週間以内に返信がない場合、お電話にてお問合せください。

◆申込締切
令和6年9月13日（金）当館必着

※ご自身の体調を考慮の上、お申込みおよびご参加いただきますようお願い申し上げます。（当日、医療従事者は同行しません）。

食を彩る工芸

企画展Topics

会期：令和6年11月9日(土)～12月8日(日)　　会期中無休

《龍田川蒔絵提重》個人蔵

二代浅蔵五十吉《青手土瓶蒸し器》加賀屋蔵

北大路魯山人《一閑塗日月椀》京都国立近代美術館蔵

《蒔絵菓子重》個人蔵

石川県指定文化財《観桜観楓図》（左隻）石川県立美術館蔵

（撮影：濱崎敏彦）

次回の展覧会

令和6年10月5日(土)
～11月4日(月･振休)
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第２展示室
雪舟と狩野派の絵画	狩野派の絵画

第３･６展示室	第４展示室	第５展示室
優品選【近現代絵画】	特別陳列 石川風土記 ―故郷の美―【絵画･彫刻】	秋の風景【近現代工芸】

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　370円(290円)
大学生　290円(230円)
高校生以下　無料
※(　　)内は団体料金
9月2日は第1月曜により
コレクション展示室無料の日

開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後6:00

9月は無休で開館しています

石川県立美術館だより
第491号〈毎月発行〉
2024年9月1日発行

〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。